



図 5-12-6 建設前の模型

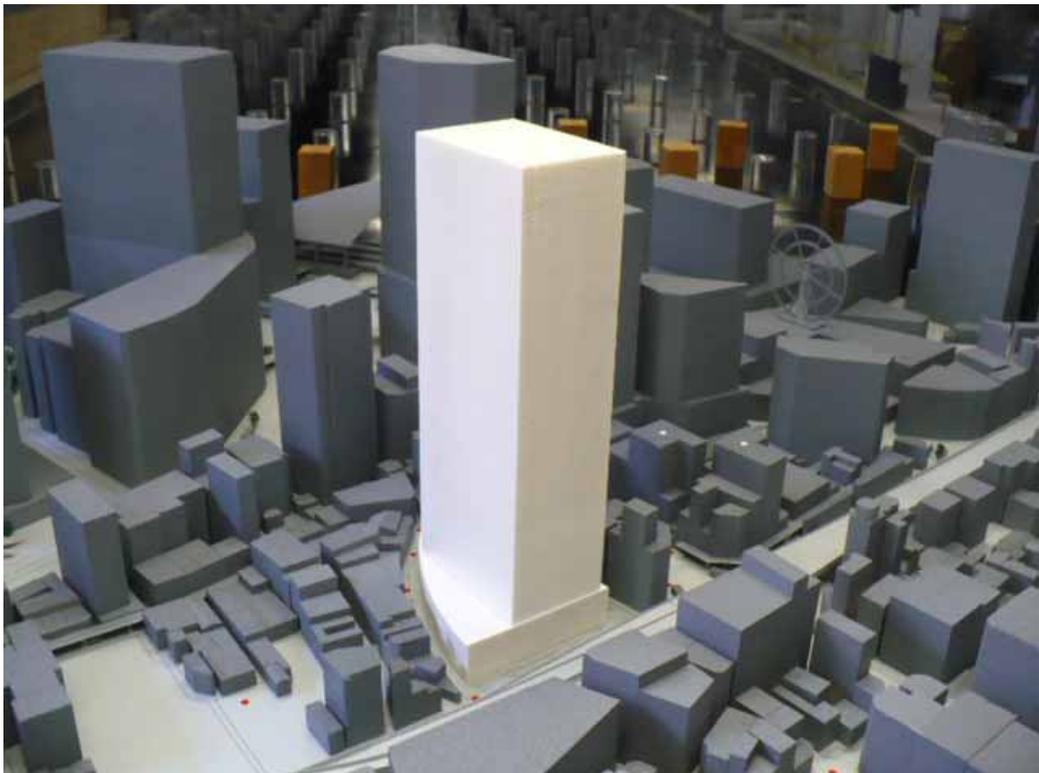
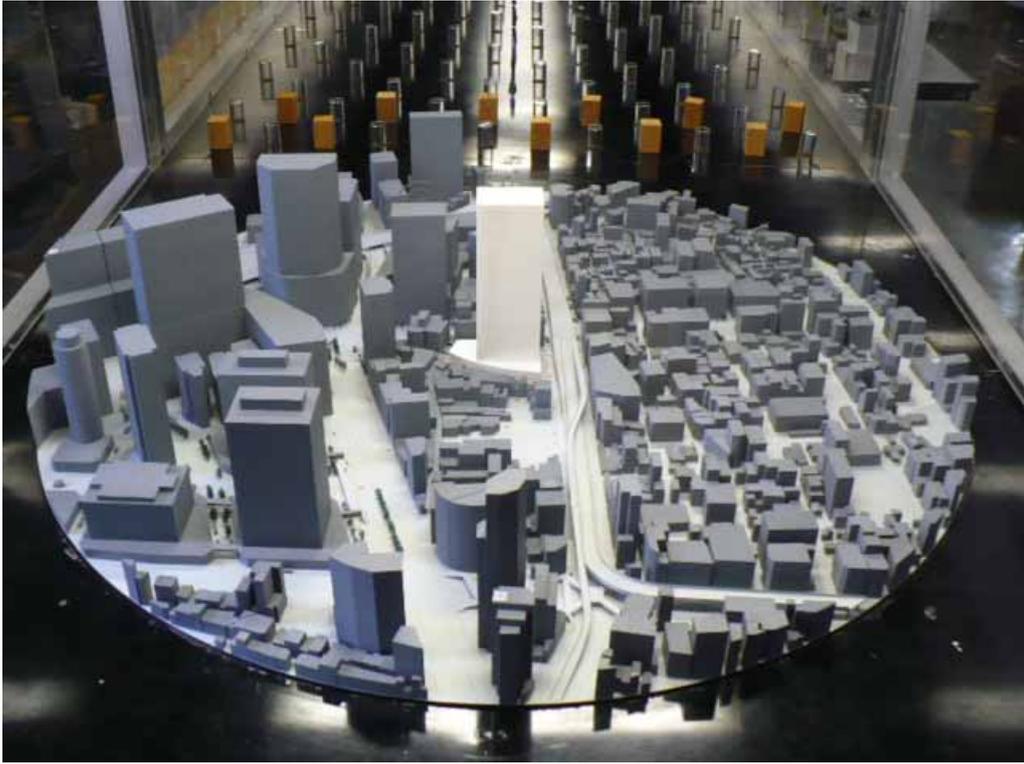


図 5-12-7 建設後の模型

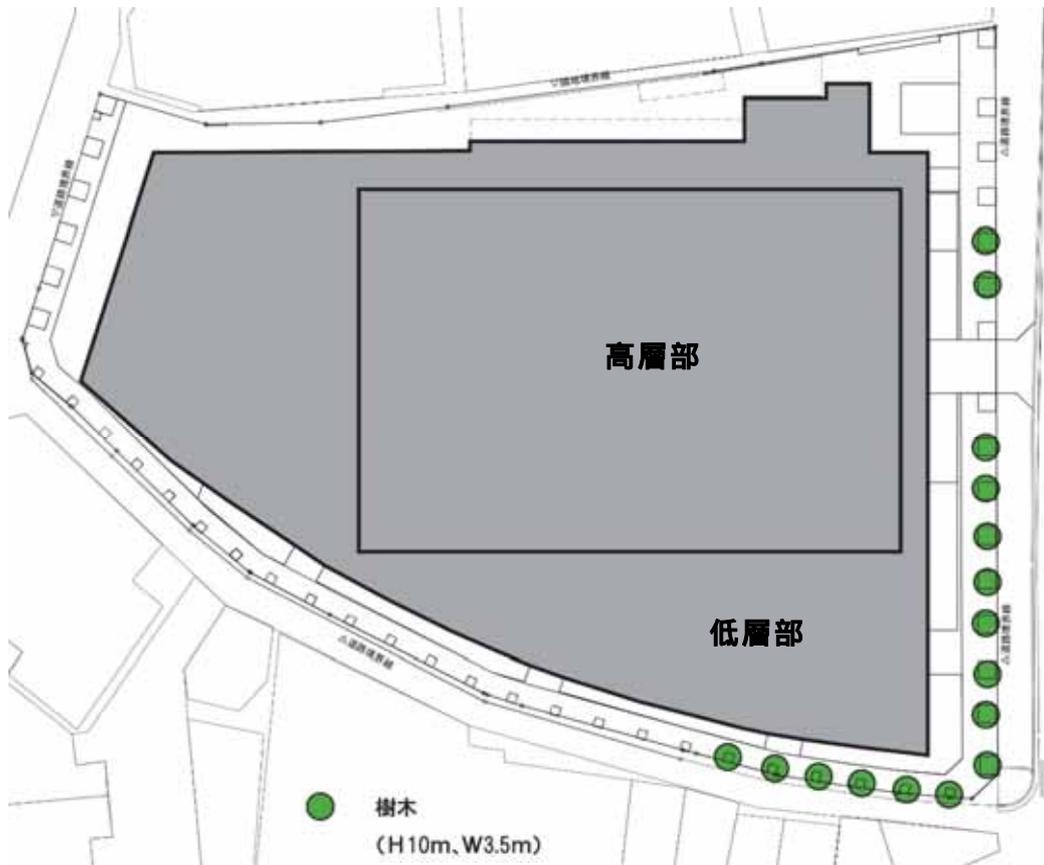
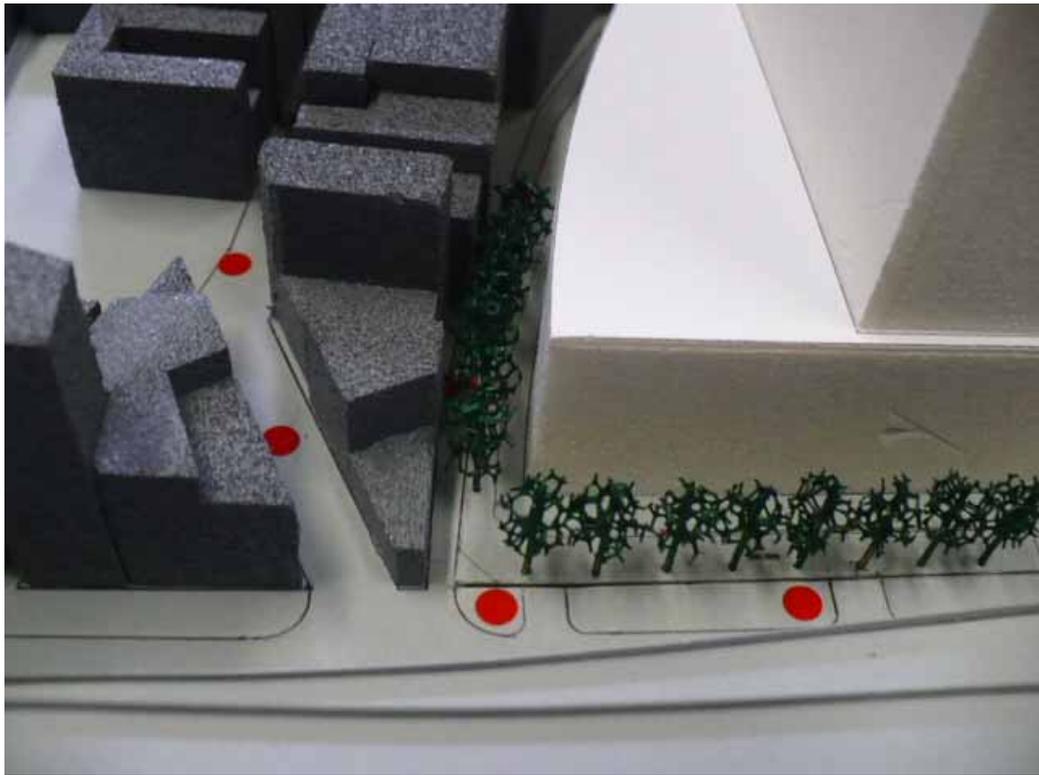


図 5-12-8 対策後の模型及び平面図

(3) 予測結果

事業計画地周辺の各予測時点における風環境評価ランクの予測結果は、表 5-12-5、表 5-12-6 及び図 5-12-9(1)、(2)、(3)に示すとおりである。

建設前

現在の建物を再現した建設前の結果では、超高層建築物が主となる事業計画地西側はランク 3 及びランク 4 となっており、風が比較的強い状態にあると考えられる。一方、中層及び高層建築物からなる事業計画地近傍や東側は、ランク 2 及びランク 1 となっており、良好な風環境であると考えられる。

建設後

計画建築物が建設されることにより、事業計画地周辺の地点では強風の発生頻度が増加し、計画建物を再現した建設後の結果では、現況に比べてランク 3 の風環境に悪化するの 5 地点、ランク 4 の風環境に悪化するの 1 地点となる。これらの地点で風環境が悪化するの、計画建築物からの剥離流や吹き降ろしの影響であり、当地方の主方向である南西から西及び北東の風向で強風の発生頻度が増加したためであると考えられる。加えて、事業計画地北側の大通りに面する歩道上の No.50、No.52～54 は、計画建築物と高さ 132m の超高層建築物（大阪富国生命ビル）の間を吹き抜ける谷間風の影響も受けていると考えられる。なお、富国生命ビル南側の歩道上にある No.52 については、歩道上に植栽されている夏季の落葉樹（イチョウ）を考慮し、予測を行った。

また、ランク 1 からランク 2 の風環境に変化するの 13 地点である。これらの地点で風環境が変化するのは、計画建築物からの剥離流や吹き降ろしの影響であると考えられる。また、計画建築物南側の歩道上 No.63～68 で風環境が変化したのは、計画建築物と隣接する住戸の間を吹き抜ける街路風の影響であると考えられる。これらの地点では、現況に比べて風が幾分強くなることが予想されるが、ランク 2 の風環境は住宅地として許容できる風環境であることから、著しい変化ではないと考えられる。

対策後

計画建築物建設後の結果を踏まえ、建設後にランク 4 の風環境に変化した事業計画地近傍の No.61 を対象として防風対策を実施した結果、No.61 では、建設後のランク 4 からランク 3 の風環境に改善される。

表 5-12-5 風環境評価ランク比較

	評価ランク	建設前	建設後	対策後
地点数	ランク 1	55	39	42
	ランク 2	6	17	18
	ランク 3	7	11	8
	ランク 4	2	3	2
	計	70	70	70

表 5-12-6 風環境評価ランク予測結果

予測地点番号	評価ランク			予測地点番号	評価ランク			予測地点番号	評価ランク		
	建設前	建設後	対策後		建設前	建設後	対策後		建設前	建設後	対策後
1	1	1	1	26	1	1	1	51	3	2	2
2	1	1	1	27	1	1	1	52	3	3	3
3	1	1	1	28	1	1	1	53	2	3	3
4	1	1	1	29	1	1	1	54	2	3	2
5	1	1	1	30	3	3	3	55	1	2	2
6	1	1	1	31	3	3	3	56	1	1	1
7	1	1	1	32	2	2	2	57	1	1	1
8	1	2	2	33	3	3	3	58	1	1	1
9	1	1	1	34	4	4	4	59	1	2	2
10	1	2	2	35	3	3	2	60	1	3	2
11	1	2	2	36	4	4	4	61	1	4	3
12	1	1	1	37	3	3	3	62	1	2	2
13	1	1	1	38	2	2	2	63	1	3	2
14	1	1	1	39	1	1	1	64	1	2	1
15	1	1	1	40	1	1	1	65	1	2	2
16	1	1	1	41	1	1	1	66	1	2	2
17	1	1	1	42	1	2	1	67	1	2	2
18	1	1	1	43	1	2	1	68	1	2	2
19	1	1	1	44	1	1	1	69	1	1	1
20	1	1	1	45	1	1	1	70	1	1	1
21	1	1	1	46	1	1	1	\			
22	1	1	1	47	1	1	1				
23	1	1	1	48	1	1	1				
24	1	1	1	49	2	2	2				
25	1	1	1	50	2	3	3				

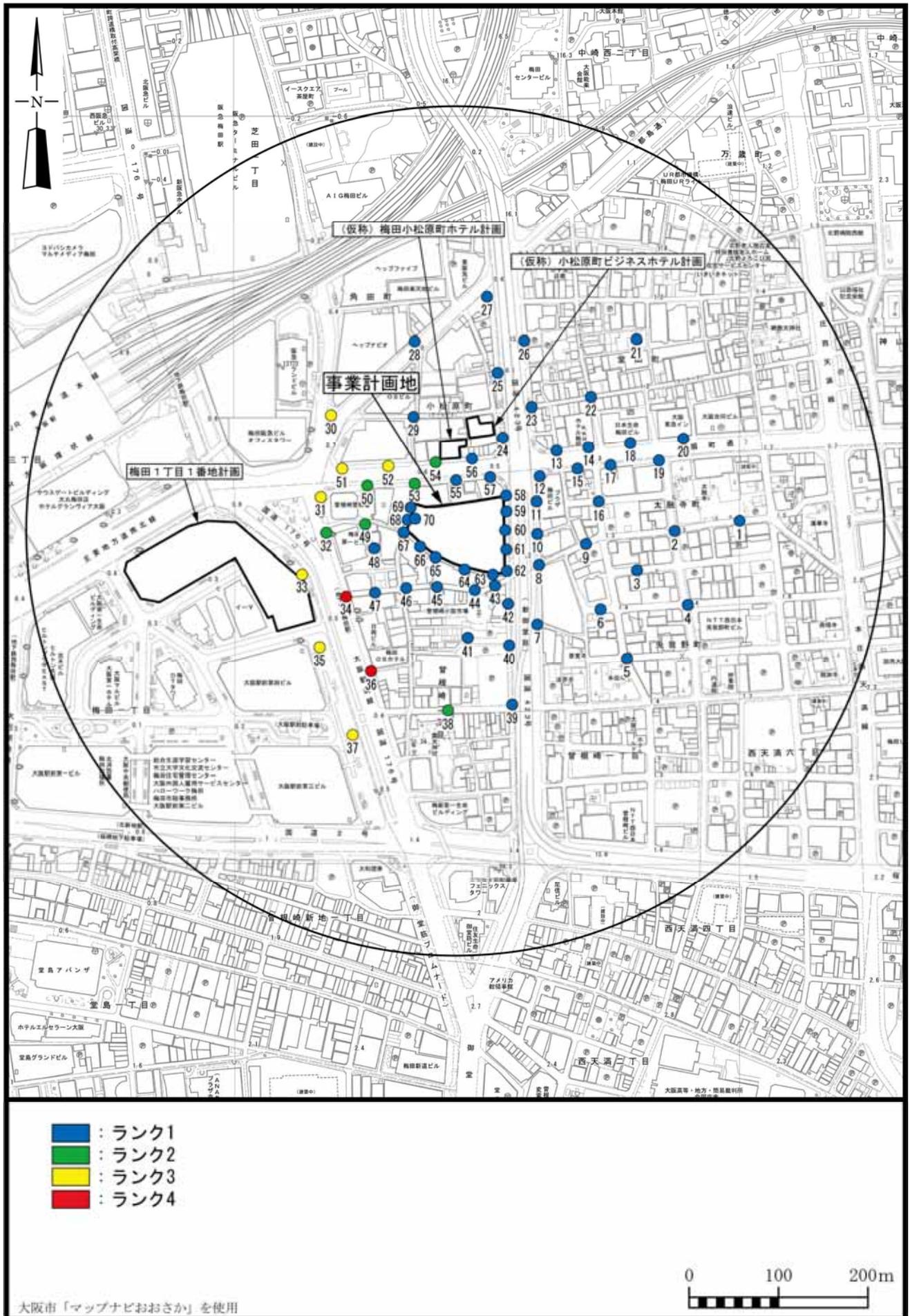


図 5-12-9(1) 風環境予測結果（建設前）

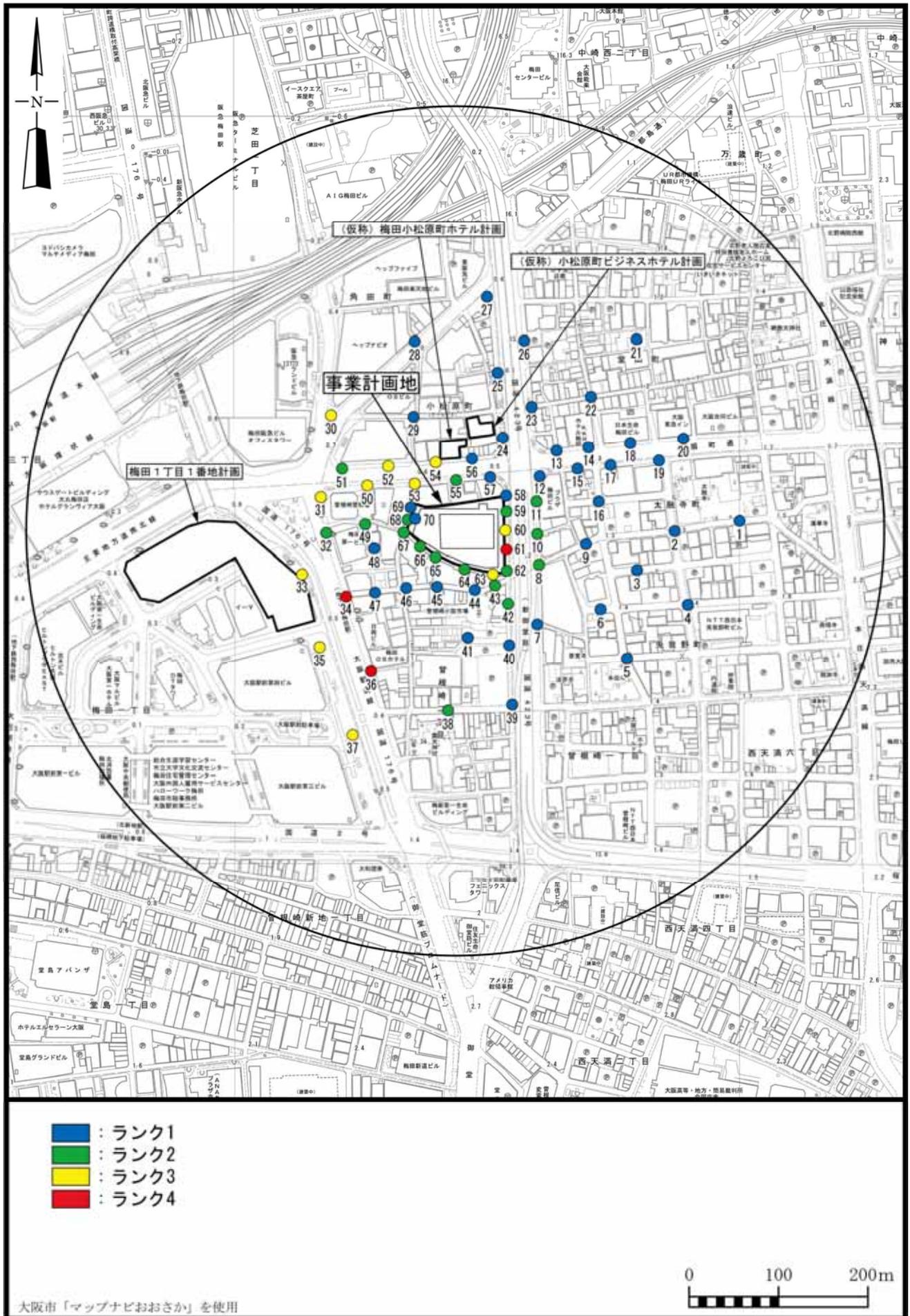


図 5-12-9(2) 風環境予測結果（建設後）

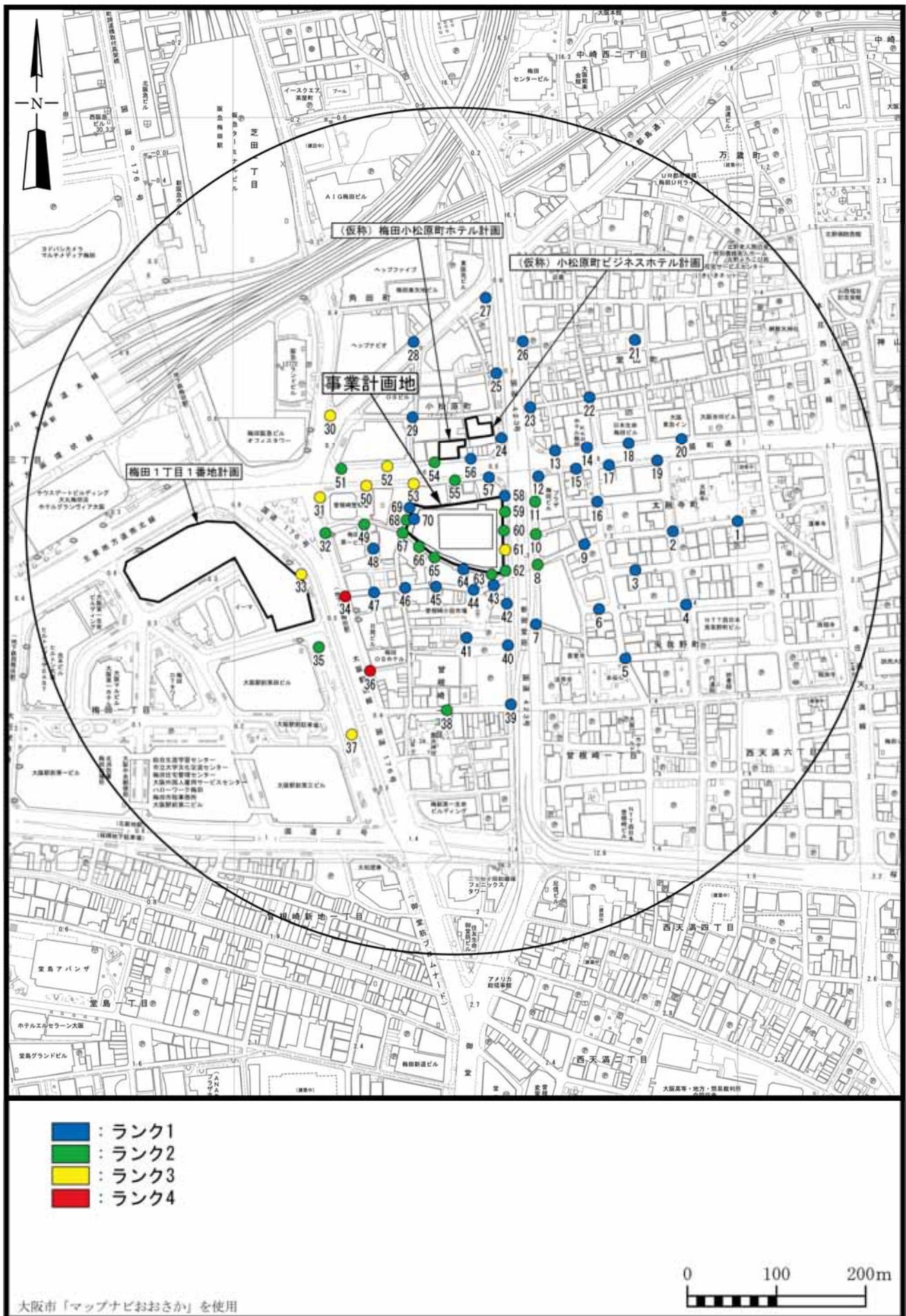


図 5-12-9(3) 風環境予測結果 (対策後)

(4) 評価

環境保全目標

風環境の評価にあたっての環境保全目標は、「事業計画地の周辺地域において、気象の状況に著しい変化を起こさないよう配慮していること」、「事業の実施に伴う風系の変化が周辺地域に著しい影響を及ぼさないこと」及び「大阪市環境基本計画等の目標、方針の達成と維持に支障がないこと」とし、本事業の実施が事業計画周辺の風環境に及ぼす影響について、予測結果を環境保全目標に照らして評価した。

評価結果

本事業においては、歩行者等へのビル風の軽減に配慮し、基壇部分を設けた建物形状とするとともに、計画建築物周辺に常緑の高木を植栽し、十分な防風効果が得られるよう適切な維持管理を行う等の防風対策を実施することにより、歩行者等への風の影響をできる限り軽減する計画である。

計画建築物の建設に伴い事業計画地周辺では風環境が変化し、現況に比べてランク2及びランク3の地点数が増加するが、事業計画地周辺は、強風による影響を比較的受けにくい事務所街等であること、建設後にランク4に変化するNo.61は防風対策を実施することで、風環境がランク3に改善されることが予測されたことから、影響は軽微であると考えられる。

以上のことから、周辺地域の気象の状況に著しい変化を起こさないよう配慮していること、さらに、事業の実施に伴う風系の変化が周辺地域に著しい影響を及ぼさないことから、環境保全目標を満足するものと評価する。